

平成 28 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が強く、日本付近には湿った空気が流れ込みやすくなりました。このため、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。3 日は台風第 18 号が猛烈な勢力で沖縄地方に接近し、5 日にかけて対馬海峡を通過し日本海へ進んだため、沖縄・奄美、西日本から北陸地方にかけて暴風雨となり、大雨となったところがありました。また、3 日から 4 日にかけて発達した低気圧が北海道付近を通過したため、北日本では大荒れの天気となりました。8 日は九州地方を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込んだため大雨となったところがありました。気温は、日本付近に暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高くなりました。

中旬は、旬の前半に北・東日本付近を冷涼な移動性高気圧が通過することが多かったため、北・東日本では晴れの日が多くなり、西日本では曇る日が多くなりました。沖縄・奄美では、前線や南から湿った空気が流れ込みやすかったため、曇りや雨の日が多くなりました。旬の後半は、北・東日本では、17 日頃に気圧の谷や前線の影響で天気が崩れたほかは、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。また、西日本と沖縄・奄美では、気圧の谷や日本の南海上の前線の影響で曇りや雨の日が多く、16 日から 17 日にかけては暖かく湿った空気の影響で大雨となったところがありました。気温は、旬のはじめは冷涼な移動性高気圧の影響で北・東・西日本で低くなったものの、その後は南から暖かい空気が流れ込んだため、旬平均気温は沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本では高くなりました。

下旬は、北日本では、冬型の気圧配置が強まったため、日本海側では寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くなりました。西日本では南から湿った空気が流れ込んだため、曇りや雨の日が多くなりました。22 日から 23 日は西日本の南岸を低気圧や前線が通過したため、九州地方で大雨となったところがありました。沖縄・奄美では高気圧に覆われ、晴れの日が多くなりました。気温は、南から暖かい空気が流れ込んだため、沖縄・奄美、西日本ではかなり高くなりました。一方、北日本では、強い寒気が流れ込んだため、気温はかなり低くなりました。

月平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高くなりました。月降水量は、西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなった一方、北日本太平洋側、東日本で少なくなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多く、沖縄・奄美で多くなった一方、北日本日本海側、西日本でかなり少なく、東日本太平洋側で少なくなりました。

【10 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 1 ポイント高い 74%でした。各地方の適中率では、関東甲信地方で 7 ポイント高くなった他は概ね例年と同様でした。最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値と同じ 2.1 となりました。各地方の予報誤差は、概ね例年と同様でした。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.8 となりました。各地方の予報誤差は、北陸地方以外の全ての地方で例年値以下となりました。特に北海道地方と九州南部地方で 0.5～0.6 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪となる日が次第に多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

天気予報では、「雪」や「雨」という予報だけではなく、雪になる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。これにより雪の可能性がわかりますので、雪への早期の備えに週間天気予報をご活用ください。